令和元年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第２分科会
山中湖村立山中小学校
校　長　　勝俣　光司

『　心豊かな成長を保証する地域連携のあり方　』
～地域の人材活用・小中連携を中心として～

１　はじめに（山中小の概要）

富士山に一番近く、東には山中湖といった自然豊かな地域にある。校歌にも「気高き富士の峰近く」、「清らに深き宇津の湖」など子どもたちの気持ちにもつながる歌詞が謳われている。また、明治８年開校の新屋学校山中分校に起源を持ち創立１４５年という歴史を持つ学校である。

『「心豊かにたくましく　明日を生きぬく力を持つ子ども」の育成』を学校教育目標に掲げ、知・情・意・体のバランスのとれた学校教育の推進を目指している。さらには、特色ある教育活動の開発と実践、思いやりの心の育成と共に高め合う学級づくり、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。

社会や地域との連携は、新学習指導要領のキーワードである。地域の方々と力をあわせ、学校教育目標の達成を目指すとともに、子どもたちが社会と関わりよりよく生きていくために必要な資質能力を育成する。そのために地域のさまざまな資源を活用し、共有・連携を図っていくことは欠かせない。子どもたちの成長は学校だけではなく、家庭・地域とも関わり、さまざまな経験を通して育まれる。その経験についても学校だけではできないことがあり、保護者や地域の力はとても重要である。

本校においては、地域の方々の学校への思いも大きく、地域の子どもたちは地域で守る・育てるといった意識を強く感じることができる。地域に大切にされている学校であり、加えて歴史、伝統に支えられ、とても協力的な雰囲気である。

また、山中湖村では「山中湖村の人づくりビジョン～子どもが主役の山中湖村～」を策定しており、高村村長さんは「子どもたちは村の宝である」「山中湖村のことを知って、村のことを誇りに思い、自慢できる子どもたちになってほしい」といったお話をされている。村の方針等も受け、効果的な連携や活動のあり方を探っていきたい。

２　地域との連携

◎外部団体との連携

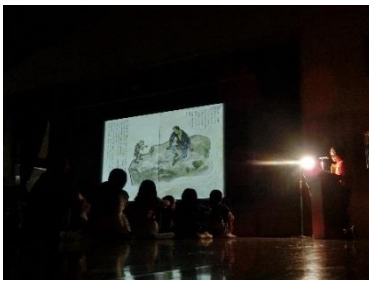
・読み聞かせ

「おはなしの会バムセ」、「こけこ」という二つの会の方々が、母校に恩返しがしたいという思いからボランティアとして実施している。１、２年生を対象とした内容で行っており、季節に合わせたお話、童謡による手遊びなども取り入れている。中休み（２０分）に来校してもらい、図書室で１～２冊の本の読み聞かせをしていただいている。低学年の児童はとても楽しみにしており、多くの子どもたちが集まる。読み聞かせを行うスペースが一杯になる。司書が窓口となり連絡調整をしており、年間約１０回の読み聞かせが行われている。

また、山中湖情報創造館（図書館）の支援をいただき、全校児童を対象に「坪井美香さんによる読み聞かせの会」を実施している。坪井さんの朗読に、司書が映像や音声を効果的に組み合わせ、全員が集中してお話に聴き入り、とてもよい時間を共有している。

本や読書、お話を聞くことに興味や関心を高め、思考力や理解力を高めたり、言語活動の充実につながる機会となっている。

「バムセの会おはなしかい」

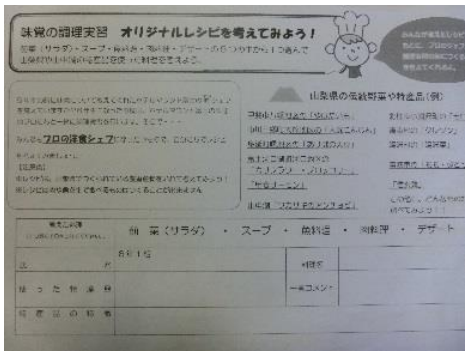


「坪井美香さん読み聞かせの会」

・味覚の授業

「ホテルマウント富士」の塘（つつみ）さんを中心としたシェフの方々に来ていただき、５年生で「味覚の授業」、６年生で「調理実習」を実施している。５年生は水の味・産地の異なる塩の味の違いについて比べる体験を通し、素材の味の大切さについて指導していただいている。６年生は、児童が考えたレシピをシェフがアレンジして実際の料理として作り、食す授業を行っている。一流のシェフから一流の食材を使っての料理を学び、フォーク・ナイフなどレストランで提供されているものを使って食事をする体験となっている。

職業についても考える機会となり、職業人としての技術、人間としての魅力を感じたり、食の素晴らしさや一流の料理、本物に触れることができる。学びに広がりや深まりが生まれる。



　また、事前の準備や指導については、栄養教諭が中心となり行っている。食文化、食に関する知識、特産品や地産地消、栄養学、健全な食生活など、食育にもつながるより効果的な取組になるとともに、学級担任の負担軽減にもつながっている。

「夏休みの宿題・オリジナルレシピを考えてみよう」

・フジマリモについて学ぶ

　「山中湖姫まりも湖援隊」が村内三校をまわり、まりもについて学ぶ授業を行っている。１９５６年、山中湖で発見されたフジマリモは水質の悪化等で絶滅が懸念されており、保護・保全に向けた取組が行われている。こういった活動から、

・山中湖村の自然を知り、守り、生かすこと
・山中湖村の環境をきれいにすること
・湖の透明度をよくしていくこと
・特に、ままの森周辺の環境を残すこと

など、子どもたちに話をしていただいている。

　山中湖のフジマリモを通して、郷土を学ぶ、環境について考える機会となっている。

◎行政との連携

・文化振興係

　山中湖村には、山中湖にゆかりのある俳人富安風生氏の功績を讃え、俳句の普及・発展など文化の振興を図る「風生庵支援協議会」がある。文化振興係が学校と協議会の調整を行い、俳句の授業を実施している。５年生の国語の単元「日常を十七音で」の講師として指導をいただいている。

　また、長期の休業中の俳句の作品募集なども実施している。

・社会福祉協議会

　４年生の総合の時間では、「やさしい心を伝えよう～福祉について考えよう～」のテーマのもと福祉についての学びを進めている。手話・車いす・アイマスク・点字などの体験活動を通して、障害のある方の日常生活や心を理解し、接し方や思いやりの心を養っている。また、４年生から６年生を対象に福祉講話集会を実施している。

「４年総合・手話について学ぶ」

ボランティア団体の方々との連絡調整、講師の先生の紹介や手配などを社会福祉協議会の担当の方にしていただいている。学校や地域の方々をつなげる役を担っていただいており、とてもよい福祉体験、福祉講話集会になっている。

「福祉講話集会」
（講師：成嶋徹さん）

◎地域の伝統、文化を受け継ぐ

６月に行われる旭日丘祭典、９月に行われる諏訪神社例大祭では、育成会やＰＴＡ役員等の指導のもと、子ども神輿が地域を練り歩く。諏訪神社例大祭においては５、６年生が参加し、２日間の行事となる。

地域行事への参加を通して、地域を知り、自分たちの住む地域の素晴らしさ、歴史や伝統の大切さについて考える機会となっている。諏訪神社例大祭においては、今年度ＹＢＳ、ＵＴＹの取材もあり、地域の行事に元気よく参加する様子が紹介された。

◎安全・安心のために

山梨県内、各駐在所・交番には、ふれあい連絡協議会が組織されている。山中湖駐在所ふれあい連絡協議会では、今年度から「子供の見守り活動」を実施しており、県内で初の取組になるそうである。子どもたちの安全や安心のための見守り、声かけを通したふれあい活動を行っていただいている。

また、村内には、組織や会などには属さずに自主的に登下校の見守り等をしていただいている方々もいる。地域の素晴らしさ、人々の優しさを改めて感じている。

◎その他

社会科や総合学習で、村探検（２年生）や消防団詰所見学（３年生）などを実施している。保護者や地域の方々はとても協力的であり、地域に大切にされていると感じる場面がたくさんある。感謝の気持ちを伝えることにもつながっている。

「村探検まとめ」

「消防団詰所見学」

３　小中連携

山中湖村では、平成２２年「山中湖村第４次長期総合計画」が策定され、それを受け「山中湖村の人づくりビジョン」が提示された。小中連携教育は、これらの施策につながる形で、村内の小中学校が連携して、９年間を見通して教育を実践し、児童生徒の学力向上と充実、望ましい生活習慣の確立、社会性の育成を図ることを目的とし推進に努めてきた。山中湖村小中連携教育推進委員会が組織され、次の３つを目標に取組が行われた。

①村内児童生徒の実態をふまえ、小中９か年の見通しの中で、次の３点を育成するための取組を進めることができるようにする。

・学習指導要領で求められている確かな学力
・健康的な生活を自らつくっていくための資質や能力
・望ましい生活習慣や生活態度

②小中９か年を見通した諸課題や各種のニーズに応じた教育課程を編成・実施できるようにする。

③相互の学校や児童生徒の様子について理解を深め、小中で連続性、関連性のある指導を展開できるようにする。

教育課程部会（教務主任）・生徒指導部会（生徒指導主事・主任）・保健指導部会（養護教諭）・学力育成部会（研究主任）に分かれて、実態把握、具体的な取組や活動、情報交換などが行われてきた。

こういった今までの成果を生かすとともに、平成２９年度から３年間、山梨県教育委員会から小中連携研究推進校の指定を受け、より効果的な小中連携を図っている。

◎算数・数学の連携

県教委の指定を受け、小中連携加配教師が配置され、算数と数学の連携を行っている。日常の授業の中でも特に力を入れて指導している教科の一つに算数・数学があり、個人差が大きい教科である。加配教師が週２日（火・金の１・２校時）、山中湖中学校の１・２年生の数学の指導（ＴＴ）に行っている。また、小学校４～６年生の算数は少人数に分けて授業を行っている。

◎中学校授業見学

小学校６年生が、中学校を訪問し学習の様子を見学している。中学生が集中して授業に取り組んでおり、その雰囲気を感じ６年生も礼儀正しく、落ち着いた態度で見学することができる。７月に実施しており、時期を早め中学校の様子を感じることで中学生に向けての心構えなど早めに準備し、頑張りや目標につなげている。

また、中学校の学園祭見学や入学説明会を実施しており、さまざまな場面を通して、中学生や中学校の様子を身近に感じさせることができる。

◎ソーラン交流

小学校３、４年生は運動会で「ソーラン節」をアレンジして踊る。中学校では全校表現で「ソーラン節」を行っており、その練習を見学させてもらった。

中学校３年生の一生懸命な姿や迫力に驚くとともに、刺激を受けた。学校に帰ってくると、みんなでそろえる、大きな声を出す、腰を落とす、中学生の動きをまねしてみるといった感想が出され、練習に取り組む姿勢も変わり、踊りも上手になった。また、中学校の先生から､聞く態度もよく､感想発表も素晴らしいといった話をいただき、自信につながった。中学生にとっても、いつもとは違った緊張感を持って踊ることができ、とてもよい交流の機会となった。

◎その他

・英語教育

山中湖村では、村内三校と保育所で英語特区による英語教育を実施している。教育委員会や英語教育推進委員会を中心に保小中の連携を図り、指導の充実を目指している。

４　おわりに

子どもたちのさまざまな学びを考えた時、山中湖村には素晴らしい方々がおり、大きな教育力につながると感じている。元校長先生は「山中湖村は人材の宝庫」とおっしゃっている。地域との連携を図ることで、子どもたちに豊かな人間性を育むために学校教育だけでは担うことができない部分を補うことができる。さまざまな人たちとの関わりの中で生き方やその姿勢にも触れることができる。本物を知ったり、実物に触れたりすることができる。学校だけではできない貴重な機会となる。

また、小中連携を進めることで、９か年を見通して、確かな学力・望ましい生活習慣や生活態度の育成を図る、中１ギャップの防止・学習の継続性など諸課題や各種のニーズに応じた教育課程を編成・実施することができる。相互の学校や児童生徒の様子について理解を深め、小中で連続性、関連性のある指導の展開をめざしていきたい。

外部との連携においては、学校と外部講師どちらが主になるのか、誰が中心になって運営するのかなど、コーディネーターの役割が重要になる。連携のスリム化、負担が少なく持続可能な取組にするための工夫などを考えていかなければならない。特長を生かし、教育課程とも関わり計画的な活動につなげていきたい。

本校では、学校の現状から行事などの反省、振り返り、データの保存・共有化といったことを特に意識している。よりよい活動につなげていき、多忙化、多忙感についても配慮していきたい。